

ジャズの街、新宿。この街の片隅にあるジャズ・スポット新宿“J”。その名物マスターにしてサクソ奏者・司会者・エッセイストなど、多彩な顔を誇るバードマン幸田氏。本書は“J”の40年間と72年にわたる、自身のジャズ人生を振り返った語り下ろしの、興味津々にして含蓄豊かなジャズ本。アート・ブレイキー&JMの来日公演でジャズの魅力に目覚め、ジャズならば早稲田大学“モダンジャズ研究会”ということで、一念発起し猛勉強。難関の政治経済学部へ合格し、モダンジャズ研究会に入り有数のサクソ吹きに……。一流企業に就

職後は順風満帆なサラリーマン生活……と思いきや、十年後に突如憧れのジャズ界に転身。以降苦難にして悦楽のジャズ人生が……。クラブ後輩のタモリや恩人の赤塚不二夫氏、さまざまにジャズメンなど、店の歴史や去来した人々を語る氏の表情は、淡々として機智と愛情に溢れ、しかも凛として心地よい。“幸田さんはモダンジャズ研究会、そしてジャズそのもの……”とタモリは語るが、まさに至言。付録の“J”年表もいろいろと意義多い。

ジャズ・ライター＆ラジオプロデューサー  
小西啓（1968年商学）



Jazz Spot J の物語  
—バードマン幸田風雲録—  
バードマン幸田(1968年政経)  
朝草出版  
2,500円+税